

令和5年度 県立新庄北高等学校 学校評価書【全日制】（自己評価・学校関係者評価）

学校教育目標	知・徳・体に調和のとれた豊かな人間性を育て、国家および社会の有為な形成者として、一人ひとりがその能力と特性をいかんなく発揮できる人材の育成を目指す。
--------	--

重点目標	1 組織力の向上と働き方改革の推進	自己評価		学校関係者評価		
	2 学力の定着と向上	達成度	評価基準	達成度	評価基準	
	3 生徒指導の充実	A	達成	4.2以上	A	十分評価できる
	4 キャリア教育と進路指導の充実	B	概ね達成	3.0以上	B	まずまず評価できる
	5 開かれた学校づくりの推進	C	やや不十分	2.1以上	C	一部見直しが必要
		D	不十分	2.0未満	D	根本的な見直しが必要

自己評価（教員）						学校関係者評価		
番号	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況、達成にむけた具体的方策・取組み状況と分析	達成度	成果と課題 次年度に向けた改善策	評価	意見・要望・評価等
1	学校の方針	教育課程は、地域の期待や教育目標に応じて設定	4.3	令和4年度入学生以降の新教育課程において、適切に設定、実施している。校務分掌間の連携は昨年度より改善された一方、業務の負担が大きく、業務の偏りがある。	A	来年度の新教育課程完成年度での着実な実施と検証を行う。また、業務の見直し、改善の上、適切な校務分掌の配置を行い、組織力の向上を図る。	B	今後も全生徒に本校の揺るぎない学校方針を示して教育に励んでほしい。学習指導要領に対応した、教育課程の取組に期待している。
		校務分掌間の連携	3.9		B			
		適切な校内人事・校務分掌の配置	3.2		B			
2	学習指導	年間学習指導計画の適切な運営	4.2	各教科で指導計画を練り、毎授業で学力向上を図っている。また、教員同士の授業参観や生徒による授業評価を行い、授業改善に努めている。更に、教員個々の必要性やスキルに応じた研修の設定が必要である。	A	「主体的・対話的で深い学び」を念頭に、ICT活用等の授業改善を継続する。また、本校の観点別評価を確立し、指導と評価を一体化させ、生徒の学力向上につなげる。	A	小中学校からICT活用を学び、今後益々重要になり、教職員もそれ以上の努力が必要である。家庭学習時間の目標達成に向け、対応に期待している。外部との連携が図られている。
		わかる授業の展開	4.2		A			
		県の基幹校として学力向上	4.1		B			
		教職員の研修体制の充実	3.7		B			
3	進路指導	3年間を見通した進路指導計画	4.2	生徒、保護者に、進路講演会や研修会の機会を捉えて情報提供を行うことができた。また、全職員体制で個に応じた進路指導が展開できた。	A	引き続き、3年間を見通した進路指導を計画的に実施する。多様な進路希望に対応できる指導体制の充実を図り、学校推薦型・総合型選抜への対応を研究していく。	A	生徒達の多様な進路希望のために、多岐にわたる進路情報を生徒の身になり活用してほしい。個に応じた進路指導を望む。総合型選抜への対応を更に取り組んでほしい。また、現状の指導体制を維持し、国公立大学の進学増加を期待する。
		個々に応じた進路指導が適切な取組	4.3		A			
		生徒と保護者に適切な進路情報の提供	4.5		A			
4	生活・施設	いじめ防止・体罰防止に関して適切な対応	4.1	生活面では、学校全体で生徒個々への丁寧な対応を心がけた。いじめや体罰の防止は担当部署中心に努め、発生した事案へ対応しているが、引き続き検証が必要である。部活動・生徒会活動の環境整備への課題がある。	B	いじめ・体罰の未然防止及び初動体制の適宜改善を図る。職員研修会等で先進事例を全体で共有し、生徒の安全安心な学校生活の構築に努める。	B	保護者とのコミュニケーションが解決につながる。事案への丁寧な対応、生徒の意見の反映に努めてほしい。誰もが、いじめ、体罰は今日の社会であってはならないことを理解すべきである。生徒達が安心安全な学校生活を送れるよう更に強化してほしい。
		生徒会・部活動の充実	3.8		B			
		教職員は、生徒の悩みや相談への親身な対応	4.4		A			
		生徒の健康、安全、防災に対する指導の充実	4.2		A			
		清掃指導はじめ校内美化の強化	4.0		B			
5	地域連携・その他	学校情報や活動内容を地域に公開	3.8	総合的な探究の時間やふるさと探究において、地域の方々と連携した取組ができていく。ホームページを活用し、学校情報や活動内容を公開しているが、改善が必要である。また、教員の勤務状況の改善が急務である。	B	総合的な探究の時間やジモト大学を活用し、生徒がより多くの地域の方々と関わる機会の充実を図る。また、教員の業務見直し・改善を全体で進め、働き方改革を推進する。	B	進学校のため、地域との関わりが希薄になるのは致し方ないかもしれないが、より多くの方々の交流を図り、生徒の成長につなげてほしい。地域社会との接点を持つには、新庄まつりなどへの参加が適している。ジモト大学を更に積極的に活用してほしい。キャンパス制については、お互いのキャンパスに行き交流するのが大切である。
		地域や保護者との連携	4.2		A			
		適切な勤務実態と健康管理の徹底	3.7		B			

自己評価および学校関係者評価の改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標の達成のために、目標や方針の共有が必要である。また、業務の見直し・改善は喫緊の課題で、教育活動が効果的に機能するための組織編成、連携体制を確立する。 ・生徒の多様な進路希望達成に対応するため、学習指導、進路指導のさらなる充実を図る。また、生徒の自走を後押しするための分掌、教科の連携体制強化等を学校一体で取り組んでいく。 ・地域連携の充実、情報発信の強化を行い、地域からの信頼を高め、本校の魅力向上とともに、令和8年度開校の新庄新高校（仮称）の期待を高める。
--------------------	--